

[成果情報名]雄子豚の外科的去勢を 0 日齢で行うと 10 日齢での実施と比べ傷口が小さく成長に影響はない

[要約]アニマルウェルフェアに関する飼養管理指針で、できるだけ早期に行うとされている外科的去勢において、0 日齢と 10 日齢の外科的去勢を比較すると、0 日齢の初生子豚で去勢時の傷の大きさを小さくすることができ、その後の成育への影響は認められない

[キーワード]アニマルウェルフェア、初生子豚、去勢

[担当]三重畜研・中小家畜研究課

[代表連絡先]電話 0589-42-2207

[区分]関東東海北陸農業・畜産草地（中小家畜）

[分類]技術・参考

[背景・ねらい]

雄豚を去勢せずに肥育した場合、肉に雄特有のにおいが生じることが知られているため、日本では食肉に供する雄豚に外科的去勢を行うことが一般的である。外科的去勢による苦痛を避ける方法として免疫学的去勢技術が開発されているが、薬剤接種コストの増加や完全に去勢しきれない個体が一定数あるため、現在の養豚現場では普及される技術として確立されていない。

本研究では一般的に用いられる無麻酔外科的去勢の方法を用いて、アニマルウェルフェアに関する飼養管理指針において、できるだけ早期に行うこととしている雄子豚の去勢を出生当日に行うことにより、指針に適した去勢日齢を目指したものである。

[成果の内容・特徴]

1. 出生当日に去勢を行う 0 日齢群、出生約 10 日後に去勢する 10 日齢群と比較する。調査項目は去勢の作業時間、傷口の大きさ等の作業成績、子豚の体重及び去勢後 30 分間の行動観察とする。
2. 去勢にかかる平均作業時間に去勢日齢による差は認められない（表 1）。ただし、担当者によって去勢作業時間に大きな幅がある（表 2）。
3. 去勢時の傷の大きさは 0 日齢群で 18.5 mm、10 日齢群で 25.1 mm となり、0 日齢群で傷口を有意に小さくすることが可能である（表 1）。
4. 子豚の体重は各測定時において両群に差は認められず、平均出荷日齢は両群とも 149.7 日となったことから、出生当日の去勢は子豚の成育への影響は少ない（表 3）。
5. 去勢直後には哺乳や豚房内を歩く行動の他に、痛みに関連するとされる臀部のこすりつけなどがあり、0 日齢群で震えや沈うつ状態がみられる（図 1）。

[成果の参考情報]

1. 該当なし
2. 該当なし
3. 成果の活用面・留意点
 - ・農家では子豚の出生当日に子豚を保定した作業があるため、同時に去勢することにより、子豚保定作業時間の低減が期待できる。
 - ・子豚の去勢をできるだけ早期に行うためには、作業者の技術の向上に努めることが重要である。

[具体的データ]

表 1 全体の作業成績

	0日 齢			10日 齢			
	n=15			n=14			
平均作業時間(分)	1.28	±	0.75	1.23	±	0.75	
最長	3.55			2.92			
最短	0.72			0.50			
傷口の大きさ(mm)	18.53	±	3.15	25.08	±	5.30	§
最高音圧(dB)	120.62	±	5.20	124.64	±	3.13	*

注) 平均値±標準偏差

注) 同行内で有意差あり (* p<0.05、 § p<0.001)

表 2 各去勢担当者の作業成績

	A		B		C	
	0日 齢 (n=9)	10日 齢 (n=5)	0日 齢	10日 齢 (n=5)	0日 齢 (n=6)	10日 齢 (n=4)
平均作業時間(分)	1.02	0.82	—	0.78	1.68	2.33
傷口の大きさ(mm)	18.3	27.0	—	26.2	18.8	21.3
音圧(dB)	121.4	123.8	—	128.0	119.5	121.5

注) 数値は平均値で示した

表 3 体重推移

	0日 齢			10日 齢		
	n=15			n=14		
初生	1.80	±	0.40	1.99	±	0.34
離乳	7.54	±	0.80	7.60	±	1.32
35日	14.69	±	2.09	14.53	±	2.63
出荷	111.20	±	6.43	111.79	±	7.96

注) 平均値±標準偏差

注) 平均出荷日齢は両群とも149.7日齢

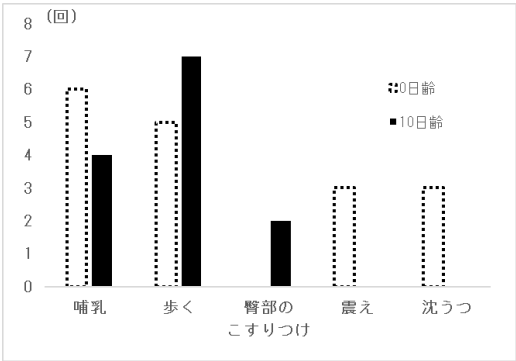


図 1 去勢直後の行動

(正木杏佳)

[その他]

予算区分： 県単

研究期間：2024 年度

研究担当者： 正木杏佳、市川隆久、岩田裕光

発表論文等：